

安心して住みよい町に！

議会だより

ガウラ



祭りだ
ワッショイ!!

No. 61

2012.10.30発行

完成!

勝浦中学校 — ② ▶ ③

町民税アップ(防災対策) — ④

7議員が一般質問 — ⑤ ▶ ⑩

勝中美術部紹介 — ⑫

まちにまつた
完成!

勝浦中学校・本体工事

町の防災事業に

9月
定例会

町民税・均等割り500円アップ!

こんなことを決めました (主な議案)

- * 町税賦課徴収条例の一部改正
平成26年度から均等割3,000円を3,500円に
- * 火災予防条例の一部改正
電気自動車に対する「急速充電設備」の設置等の基準
- * 平成24年度一般会計補正予算 …… **340万円**
 - 与川内市ノ江集会所トイレ改修工事 …… 100万円
 - 中山婆羅尾地区土壌検査 …… 138万円
- * 町道認定 ● 掛谷長田線 (延長235m)

9月定例会は7日から18日まで開かれ、条例改正4件、24年度の補正予算、町道認定など提案され可決しました。
また、追加議案として、教育委員会委員の任命、固定資産評価審査委員会委員の選任、勝浦中学校外構工事変更請負契約について提案され、可決しました。
平成23年度各会計の決算認定については、提案後、総務産建常任委員会に付託されました。一般質問には7議員が、町の政策などを問いました。

議案に質問



◆火災予防条例の一部改正

国清 消防署もない町で、「急速充電設備」の立ち入り調査や指導ができるのか。

伊丹企画総務課長 有資格者や専門職員がいないので、業者やメーカーに説明を聞いて安全確認したい。

◆一般会計補正予算

井出 ごみの広域処理について、減量化が進んでいる勝浦町が不利にならないように。

中田町長 現在、参加・不参加を決める基礎調査の段階である。

節 土壌調査の結果で、問題が「ある」「なし」に対し、町はどうするのか。

岩佐住民課長 調査の結果は、いずれの場合も県の指導を受けたい。

川端 県の果樹研究所の跡地利用について、町の考えは。

野上産業交流課長 利活用の検討委員会を立ち上げ、農業振興も含めて検討したい。



9月末に完成した勝浦中学校校舎工事。改築調査特別委員会では、10月1日に校舎を視察しました。



2階デッキ



中央廊下



武道館

固定資産 評価審査委員



松田 豊氏
(久国)

任期満了に伴う勝浦町固定資産評価審査委員会委員の選任について同意しました。

よろしく!!

新たな 教育委員会委員



椎野 和幸氏
(坂本)



森野 光次氏
(黒岩)

任期満了に伴う勝浦町教育委員会委員の任命に同意しました。

産業建設常任委員会

8月29日委員会を開催し、補正予算や条例の一部改正、町道認定など審議しました。

防災対策に町民税アップ

東日本大震災を受けて、自治体が実施する防災事業に必要な財源に充当。

平成26年度から10年間、均等割りの標準税率(現行3000円)に500円を加算する。

町道認定

掛谷地区から申請のあった「掛谷長田線」235mの現地踏査を行いました。



果樹研究所跡地利用

跡地を活用するための委員会を設置し、町長に答申する。



文教厚生常任委員会

8月31日委員会を開催し、補正予算や条例の一部改正、教育委員会委員の任命について審議しました。

補正予算

○徳島市など7市町村が協定しているゴミ処理施設の広域化に関する負担金として17万円。本年度は基礎調査を実施。平成25年度は基本計画を策定する予定。

○西婆羅尾(中山地区) 土壌等検査委託料 138万円
 専門業者に委託して町が自主的に検査をする。結果は地元住民に説明する。

町にどう活かすか 文教厚生委員会視察

委員会では「医療と福祉」を視察のテーマとして、先進地である宮城県「川崎病院」と岩手県・矢巾町役場を選定し、7月26日から28日に視察しました。



改革の進む川崎病院

病院の赤字解消と 医師不足対策！

川崎病院は60病床で、診療科目7科を設け、特に赤字解消に向けた改革プランでは、民間的経営手法を導入し、事業規模・形態などを見直している。

医師不足対策では、ドクターバンク事業の利用や、町長、事務長が再三大病院に足を運び、医師確保を積極的に進めている。また、町に合った医療を展開

するため住民の意見を聞く「行政懇談会」を各地区で開き、安全で安心できる「安らぎの郷」を目ざしている。

日本一健康な町に

矢巾町では保健・医療の施策として「国保ヘルスアップ事業」で生活習慣病の予防策として、食生活の改善、一歩でも多く歩くことを進め、検査値の改善、医療費の抑制に効果を出しており「日本一健康な町やば」を目ざし、重点的に取り組んでいる。「生きがい推進課」を設置し、「健康長寿の町宣言」や「福祉の町宣言」を打ち出し、「地域と協働で進める健康づくり」を進めている。



「さわやかハウス」で研修

山野忠男議員



「人・農地プラン」で活性化を

取り組み状況は

9件の問い合わせがあった

(産業交流課長)

問 新規就農者給付金制度の「人・農地プラン」は本町にとって何よりも有利な制度だ。現在までの取り組み状況と応募数は。今後の農業活性化に向けての取り組み方針は。

答 小林副町長 広報の折り込みや、営農講座等の会議での周知を図るとともに、要件に該当する人に連絡している。

答 野上産業交流課長 9件の問い合わせがあった。その内1人が経営開始計画書を提出する予定で、結果は県の審査待ちとなっている。

答 中田町長 現在、農作業の省力化や担い手の育成が大きな課題だが、地域農業発展のためにも「人・農地プラン」を活用し、課題に積極的に取り組み、農業の活性化を進めたい。

肺炎球菌ワクチン 予防接種に助成を

問 肺炎は高齢者にとって死亡につながる重篤な疾患とされ、全国の約半数の自治体が公費で肺炎球菌ワクチン予防接種の助成をしている。県内でも石井町、那賀町、北島町、上板町で助成しており、本町でも早期実施を。また、町内で年間の肺炎患者数は。

答 中田町長 肺炎球菌ワクチンの予防接種の助成については、国や県に導入の要望などを含め、色々な角度から研究をして行きたい。

答 大西福祉課長 平成23年1月から12月までの一年間で、肺炎と確定病名がついた65歳以上の患者は62人であった。

町道の改良について

問 平成24年度各区長から町道改良の要望は何カ所で、そのうち年内に何カ所完了予定か。

また、与川内の小川橋の長寿命化計画の進捗状況と、木小屋線改良の予定は。

答 柳沢建設課長 要望カ所は123カ所で、予算の配分もあり年度内に8割の完了を予定している。

また、小川橋については美観を損ねない工法で濁水時に着工したい。

木小屋線については関係者の期待に添えるような工法で、道路改良事業費の調整の中で検討したい。



改修される小川橋

学校でがん教育を

創意工夫して取り組む（教育長）

河野道雄 議員



答北島教育長 東京都の豊島区では既に条例制定され、取り組みをしている。

問 豊島区では児童、生徒が学校で学んだがんの課題が家庭の中で話し合われ、家族ががん検診を受けるきっかけになっている。

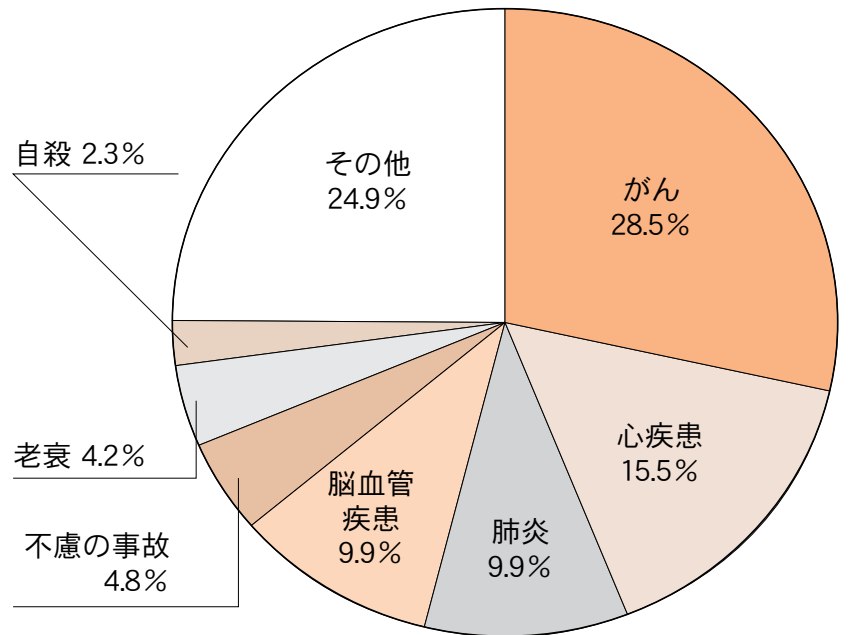
学校健康教育の一環にがんに関する教育と、生活習慣病の授業を取り入れては

問 今年6月、第2次がん対策基本計画が閣議決定され、がん教育とその普及啓発が位置付けられた。国が健康教育全体の中でのがん教育のあり方を模索する一方、一部の自治体では独自に児童生徒への教育を規定した条例を制定し、先行的な取り組みが始まっているが、教育長はこの取り組みを知っているのか。

答北島教育長 教科的なものはないが、学校が自主的に取り組むことのできる範囲で工夫をしているのが現状である。今後、学校において一層創意工夫して取り組むよう指導する。

若者に出会いの場を

主な死因別死亡数の割合（平成23年）



問 本町や近隣市町村には結婚に適した年齢を過ぎていると思われる人が多数いる。結婚の意思はあるが、仕事の都合などで男女の出会いが少なくなるなど、深刻な悩みである。今までど

のように取り組んできたのか。

答野上産業交流課長 勝浦町では農業後継者という観点から、昭和53年から花嫁対策として専門相談員を置き、相談事業を実施したり、結婚祝い金の交付などを行った経緯がある。

問 勝浦町も近隣市町村に呼びかけて、適齢者同志が交流できる場を設けてはどうか。

答野上産業交流課長 町が今年度から補助金を出している勤労福祉ネットワークという組織があり、その中で「きらめき縁結び応援団」という県内の企業や自治体等が加入して、交流の場を持つという組織がある。こういったつながりを利用すれば結婚問題の一助になるかと思う。

答中田町長 現状はよく認識しているが、それぞれの事情もあり、家や親に対する考え方も多様化しており、家を守って行くと言う考え方が希薄になってきているのではないかと。



美馬友子議員



伝統文化を守ろう

勝浦座に保管倉庫を

県に計画書提出中（教育長）

問 勝浦座は人形浄瑠璃の保存と継承に努め、地域の活性化も担っている。町はどのような支援を行っているのか。

答 北島教育長 町の無形文化財保護活動補助金で、活動に要する経費の補助をしている。

問 活動支援として練習場の使用料免除はできないか。

答 北島教育長 文化協会の芸能部門に所属しており、各施設の条例に基づき支払いしてもらっている。

問 人形などの保管倉庫の支援策はあるのか。

答 北島教育長 保管倉庫建設要望を受け、「徳島地域創造戦略交付金事業」に計画書を提出中で、審査待ちである。

問 組織を強化するために、も記録の保存や担い手の育成は。

答 坪井教育委員会事務局長 楽ビジョン受託業者に撮影を依頼しているが、勝浦座からも映像データをもらい保存利用している。

後継者の育成として平成18年から勝浦座とともに小学生を対象とした子供阿波人形芝居教室を開催している。



勝浦座の子どもたちへの指導

勝浦音頭の継承を



坪井教育委員会事務局長

問 郷土の豊かな心を育成できる勝浦音頭を、まちの

人や子供たちが将来踊り続けられるためにも振り付けの記録保存が必要では。

答 北島教育長 勝浦中学校では婦人会に指導してもらっている。振り付けの手順をビデオで残しておきたいと考えている。

認知症支援対策

サポーター養成を

問 増え続けている認知症について正しく理解し、早期発見、早期治療ができるように認知症サポーターの養成を。

答 大西福祉課長

包括支援センターを受け皿として実施を協議中である。今年度中にスタートしたいと考えている。

問 早く体制作りに取り組み、安心して老いることができる町になってほしい。在宅での支援体制は。

その他の質問

○ 小松島西高校勝浦校に支援を。

○ 救急搬送の充実を。

新規就農者

農地が買えない下限面積の壁

30アールで県に協議（野上産業交流課長）

国 清一 治議員



問 新規就農者などが農地を購入するとき、農地面積が50アールにならないければ購入できない農地法の下限面積の壁がある。
他町村では、担い手や後継者不足で遊休農地や耕作放棄地が増え続けるなか、下限面積を10アールにしている地域もある。本町も農業の厳しい現状から、見直すべきである。

答 野上産業交流課長

平成21年度に、下限面積を30アールに設定したいと県に協議した経緯があるが、実現に至っていない。

ドクターヘリ

パラグライダー事故に無条件出動？

問 9月6日にドクターヘリの出動要請訓練があつたが、その目的は。

また、パラグライダーの事故の通報があれば、無条件に出動要請すると言うが問題はないのか。

答 伊丹企画総務課長

ドクターヘリは、事故により重症患者等が発生したとき出動を要請し、県立中央病院からヘリで医師が派遣されるもので、10月から運用が開始される。
パラグライダーの事故は、重篤な患者が多く、事故の通報があれば出動要請し、必要があればキャンセルできる体制をとっている。



ドクターヘリの出動訓練（星谷運動公園）

「荒れる里道」どうする維持管理

関係者、関係団体で

（中田町長）

問 平成17年までに国から譲与された法定外公共物。いわゆる里道（赤線）、用水路（青線）はどれくらいあるのか。

答 柳沢建設課長 国からの譲与は公図に基づいたもので、里道が2984カ所、用水路が2250カ所で延長はわからない。

問 今、里道、用水路のほとんどが十分な管理もできず荒れ放題になっている。どこが維持管理するのか。

答 柳沢建設課長 管理は里道、用水路がある地域住民にお願いしている。

問 今、勝浦農業の主役は70歳以上の高齢者である現状から、里道の管理などとはとてもできる状況にない。基幹産業を推進する町長の考えは。

答 中田町長 中山間事業などに工夫を加えるなど、関係者、関係団体で管理をお願いしたい。

その他の質問

○課再編でどう動いているのか。

森本 守議員



ごみ処理広域化

どうなっていくのか

これからの協議で決めていく (町長)

問 平成10年5月に徳島県ごみ処理広域化計画が策定された。勝浦町は東部1ブロックに区割りされ、協議会で検討されてきたが今回解散した。理由は何か。

答 小林副町長 小松島市と勝名地区町村で協議会を設立し幹事会を開催してきたが、新たな枠組みの協議会が発足予定となり、平成24年7月の協議会で解散を決定した。

問 平成20年8月8日、徳島東部地域市町村長懇話会において広域整備について提案があり、12市町村の担当者会議が始まり8回協議し終了した。この間に7市町村(徳島市・小松島市・勝浦町・佐那河内・石井・松茂・北島)になった。その理由は何か。

答 岩佐住民課長 懇話会で廃棄物処理の担当者連絡会が行われ、その時には各市町村の現状や課題の報告、意見交換をしてきた。その後、広域整備の提案

があり、参加の意向を示したのが8市町村で、最終的に協議に参加したのは7市町村になった。ごみ処理施設の状況や稼働年が違うなど、それぞれ事情があるのでは。

問 平成24年度費用は、人口割で17万円の負担となっている。今後人口割での負担が続くのか。

答 岩佐住民課長 平成25年度は計画書づくりで国勢調査の割合と決まっている。それ以降の費用負担は協議して行く。

問 必ず参加しなければならぬものか。

答 中田町長 あくまでも参加の意思を示した調印であり、これからの協議で決めて行く。

若者住宅支援策は

問 若者が住みたい町づくりにどんな支援ができるのか。

答 伊丹企画総務課長 住宅用地の分譲や住宅家賃の補助制度がある。今後、建て売りや新築した場合の住宅取得補助金、住宅ローンの借入期に対する償還補助とか、固定資産

税の免除等が考えられる。住宅施策だけでなく、働く場所の確保、教育、医療、福祉、環境などの子育て支援、安全・安心な温かい地域社会など、多くの要件を満足させる質の高い生活環境が求められ、これらの課題を推進することが若者の定住につながると考えている。

■その他の質問

○町有地の災害について。



分譲される町有地 (中山地区)

不妊治療に助成を

早い段階で結論を出す（町長）

井出美智子議員



問 不妊治療費は高額で、若いカップルにとっては大きな負担となっている。県の事業に上乘せ助成をしている自治体も増えてきているが、町で助成をするとしたら、年間予算はどのくらい必要か。

この施策は、少子化対策としてもぜひ取り組むべきである。

歯科保健条例の取り組みを

問 近年、歯科疾患と全身の病気や糖尿病との関連が言われているが、県の歯科保健条例を受けて、町ではどのような取り組みをしているのか。

また、徳島市で実施している国民健康保険加入者への歯科健診を取り入れてはどうか。

答 大西福祉課長 年間に必要な予算は5組を想定し、総額で50万円から75万円程度となる。

答 中田町長 少子化対策は大事な施策なので、要望の状況を見極めながら早い段階で結論を出したい。

答 大西福祉課長 各地区の愛育班で、希望があれば歯周病予防のブラッシング指導を行っている。

答 前田税務課長 国民健康保険会計の現状では、加入者の歯科健診は困難と思われる。

今年度、健康福祉まつりの記念品として歯ブラシを国保会計から出す予定。



ごみ処理施設の広域整備について

問 徳島市など7市町村の広域ごみ処理協議会に参加を予定しているが、徳島市は勝浦町と違い、行政と住民が一体となって減量化に取り組む体制になっていない。

これまで培ってきたごみの減量化を続けて行くためにも、広域処理の抱える問題をしっかりと認識して、町民の利益を守って行かなければならない。

町長の基本姿勢は。

答 中田町長 ごみの広域処理については、関係自治体の処理方法が違い、負担金や建設場所、運搬距離など様々な協議をして行かなければならないと認識しており、慎重に対応して行きたい。



きちんと整理されているゴミ分別ステーション(今山地区)



若者定住対策

住宅の新築に 100万円の補助金を

公平性を考慮（町長）

問 消費税が平成26年27年と続けて上がるため、住宅建設の駆け込み需要が起きる。

また、南海トラフの巨大地震による被害予想が見直されたが、勝浦町は津波の心配はなく近隣市への交通アクセスも良い。

新築住宅に100万円の補助金を出して、町内への住宅建設を促進してはどうか。

財源的には住宅が新築されると固定資産税が入り、人口が増えると地方交付税が増えるので、実質的な負担はない。

どのように取り組むのか。

答 小林副町長 消費税の引き上げを見越した駆け込



新築住宅に補助金を

み需要や、住宅用減税の拡大などにより住宅の新築は拡大すると思われる。

勝浦町は、津波被害がなく豊かな自然に恵まれた住環境や、子育て支援の充実などを積極的に情報発信して行きたい。

答 中田町長 新築住宅の補助金については、公平性を考慮して検討して行きたい。

学校での 血液検査の効果は

問 全国的に学校の健康診断に血液検査を取り入れる動きがあるが、勝浦町では10年前から他の市町村に先駆けて、小学6年と中学2年で実施している。素晴らしい事業であるが、どのような効果が出ているのか。また、高校生になると男子で44%、女子で47%が生活習慣病との調査結果がある。高校生も対象にすべきでは。

答 坪井教育委員会事務局長 小児生活習慣病の早期発見、早期治療や食育を通じた健康づくりに役立っている。

答 大西福祉課長 将来の医療費抑制に効果が期待できる。

答 中田町長 県が小・中・高生を対象に生活習慣病予防検診を実施しており、異常があれば2次検診として血液検査も行っている。

横瀬・檜渕地区

急傾斜崩落対策

問 檜渕地区の急傾斜地は、台風の大規模化や想定外のゲリラ豪雨による地すべりが心配される。来年度中に事業は完成できるのか。また、災害時の避難道を建設すべきでは。

答 中田町長 県に対し平成25年度に完成できるように予算確保や事業の推進を要望して行く。

答 柳沢建設課長 ならかな勾配で道幅1・5mの里道を整備する計画になっている。

こっぴど! 勝中クラブ活動

今回、紹介するクラブは美術部です。
部員数は19人で、長尾友香先生の指導のもと、平日は毎日17時まで活動しています。
10月15日新校舎に引越した真新しい教室で活動が始まりました。

カメラを向けると、ちょっと恥ずかしそうにしながらも、とても元気な生徒たち。作品の完成が楽しみです。



美術部



部員へのインタビュー

部長 廣瀬萌生さん

みんなで楽しみながら絵を描きたい。上手になれるように日々努力しています。

新居菜摘さん

小学生の時入選したのがきっかけで入部しました。水彩画が得意です。

大西 菜菜さん

現在油絵に挑戦中です。みんなで楽しく描いています。

谷 菜琴さん

「トライフル・トライアングル」の読書感想画の構想を練っています。

酒井和也くん

デッサンが得意です。

福良佳那子さん

野菜や果物を3Dで描きたいために入部しました。

顧問 長尾友香先生

今年から顧問となり、デッサン画の教本などを参考にしながら指導しています。読書感想画や子供県展等へも挑戦して行きたいと考えています。

編集後記



「かぜとおこ」

政局は、党首選に明け暮れた9月。今では臨時国会の審議と、衆議院解散時期を巡る攻防が国民不在のまま続き、見通しが立たない。とりわけ特別公債法案が可決されなければ、地方自治体は混乱し疲弊する。

国政は混乱しているが、本町行政では、念願の勝浦中学校が完成。

10月には町境近くの狭あい部も拡幅され、車の流れがスムーズになった。最後に残されたバイパス3期工事着工を望む声が増しに高まっている。早く安全・安心で「かぜとおこ」のいい町にしたいものである。

(国清)

